

進め方

- ① ノート (もしくは白い紙をホッチキスで止めた冊子) を準備する
- ② お題は即興でできるよう、あいさつの後に教師が伝える。
- ③ お題 (Chat のトピック) は自己選択とする。



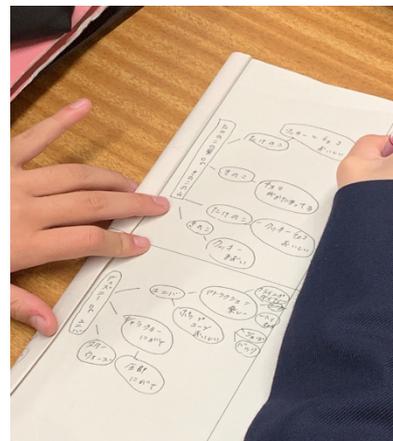
Chat のトピックの作り方は?

- What Japanese food do you like?
- What subject do you like?
- Which sport do you play?
- What did you do last night?
- What did you eat yesterday?
- What TV program do you like?

「質問で始めた」場合、話者は受け身になりやすい。

- My favorite [Japanese food]
- My favorite [subject]
- My favorite [sports]
- Which do you like better, [fast food or slow food]?
- What kind of [Japanese food] do you recommend for foreigners? Why?

自己決定したことは、話者が「語りたい」と思うようになる。



- My favorite () ()の中を自己決定させるのがコツ。

* 教師の方から一方的に与えると、その内容について対応できない生徒が出てくる。

- 次のように、即興型ディベートにも使える。この場合 () の中は教師が与える。

Which is better for you to (study) , (in summer vacation) or (in winter vacation) ?

Which do you recommend when we go to Osaka from Tokyo, by airplane or by Shinkansen?

Why? (More than two reasons)

やり方

- ① ジャンケンで順番 (インタビューをする側, される側) を決める。
または “I'll go first.”, “After you.” でどちらが先にやるかどうかを自己選択する。
- ② 教師の合図でチャットを始める (タイマーで2分間計る)

チャットのルール

- 一人が質問をし、もう一人が答える。
- その答えを質問者がマッピングで記録し、それを見ながら次の関連質問を考える。
- 話題は途中で変えない。
- マッピングのノード (得た情報) は、必ず「名詞」で書く。(文, 動詞, 形容詞は NG)

- ③ 2分経ったら、役割を交代する。
- ④ 2人とも終わったら、お互いのマッピングシートを間に置いて、「もっと広げられた場所」を見つけ、他にどんなことが聞けたかを考え、赤ペンで書き込む。

【教師の指導】

- 「うまく英語に直せなかったこと, 英語で言えなかったこと」を紙に書き、教師がそれを後日まとめて A4 1枚に「こう考えてみよう」「習った単語でこう言える」というヒント

を書いて配布する。

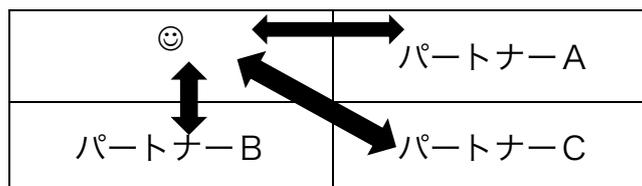
- クラス全体が同じトピックの場合は、「どう伝えたか」を全員で出し合う

発展的な活動

- (再挑戦) パートナーを変えて、同じトピックでチャットを行う。
- (レポート活動) パートナーを変え、チャットの内容を報告する。
(友達の話したことを、マッピングを見ながら即興で伝える)
- (ライティング活動) 自分もしくは友達がチャットで話したことを書く活動
- (統合的な活動) ある程度、ノードの数が増えたら (15 個以上)、グルーピング (大きな情報のまとまりがいくつあるかを丸で囲む) とナンバリング (通し番号にして書く順番を考える) をする。その後、マッピングをした内容をレポート (英文) に書く。書いたものを、違う相手と交換して、お互いに読む。その後、書かれたレポートから得た情報をもとに、話した本人のところに行き、マッピングを使わずに (立ったまま) Two Minutes Chat を行う。

ペアについて

理想は生活班ではなく、「学習ペア」をつくるのが望ましい。



マッピングの効果

■今までの指導

- 定型文のQ-Aが書かれたプリントをただ単に交代で言わせていた (子どもたちにとっては暗記でしかなかった)
- 定型文のQ-Aが書かれたプリントの一部を自分のことに変えさせていた (会話が広がらず、これも暗記とほとんど同じだった)
- 1分、90秒、3分などトピックを与えて、2人、3人で会話させていた。(1つの話題で話し続けることが難しかった。また、マッピングをしないので会話の記録が残らなかった)
- インタビュー・マッピングをする前の指導は、暗記をさせた上で型にはめて会話練習をしているだけだった。「自分の伝えたいことを相手に配慮して伝える」「相手のことをもっと知る」という気持ちを育てず、「ALTとスピーキングテストがあるから、〇月〇日までに1~15の会話ができるように」、という指示を与えていた。生徒は「実際の場面」でそれらのQ-Aを使うことはほとんどなかった。

■インタビュー・マッピングを始めてからの指導

- マッピングをすることで、日本語でやり取りしているような、スムーズな会話の流れが見られるようになった。(「昨日大阪行ったんだー」「えー誰と?」・・・)
- 教科書に出てこないような質問が意外に会話に使えるということで、「本当に使いたい質問」の幅が広がった。例) Who did you go with?/Until what time~?など

- 1つの話題を広げたり、深めたりしていかないと、マッピングのバルーンがつながっていかないので、子どもたちは次にどんな質問をすればいいのかを考えながら話すようになった。
※ 唐突な質問や Do you like～?といった単純な質問をすると、会話がつながらず、2分間話し続けることができないこともわかってきて、5W1Hを丁寧に聞くようになった。
- マッピングをすることで話題が広がったり、深まったりするので、相手のことをより知ることが喜びとなり、人間関係がよくなった。
- マッピングを見れば、チャットの後のレポート活動や、ライティング活動がスムーズにできるので、マッピングを大切するようになった。以前の言っぱなしの会話では、絶対にできなかった。

Two Minutes Chat を3か月続けてきた生徒の感想 (T 中学校2年生)

- 私は初めて「Two Minutes Chat をする」と聞いた時、「なぜこんなことをするの?」と思いましたが、実際やってみると自分の成長がよくわかる活動だなと感じました。最初は単純に楽しいなと思いました。だんだん慣れてくると、英語が自然と話せるようになりました。今後はALTの先生とのスピーキングテストや英検にも生かせそうです。
- 2分間という短い時間で、何とか英文を続けようとする力がどんどん身に付いたと感じました。単語を練習した次の日のTwo Minutes Chatの質が上がっていき、日に日に英語で話す楽しさというものが感じられてきて、もっとこんな話題について話したいというワクワク感を持てるようになりました。
- Two Minutes Chat をして、そのたびに英語で話すことの楽しさを感じています。おかげで、英語で話すことのワクワクドキドキをよく感じます。Two Minutes Chat をする前は、英語は暗記だという考えをしていたけど、知っている英単語を使って英文を言うとき、相手に伝わったときの楽しさは、ほかの教科とは違った楽しさだなと思いました。
- Two Minutes Chat は友達とたくさんコミュニケーションが取れるし、忘れていた単語なども話していて思い出せたりできるので良いと思います。初めてTwo Minutes Chat をした時よりも、最近楽しくなっていると思いました。先生と英語で会話するときも、前はそんなに会話が續いていなかったけれど、Two Minutes Chat をしてだんだん續くようになったので、力が付いたのかなと思いました。
- Two Minutes Chat を始めて、最初は正直難しいなと思ったけれど、約3か月続けてきて、だんだんすらすら英語を言えるようになってきてとても楽しいです。その結果が表れたのは、英検の二次試験でした。Two Minutes Chat で話していたことを思い出して言いたいことを素直に伝えられたので嬉しかったです。
- Two Minutes Chat をやってみて、英語で人とコミュニケーションが取れて、人の質問に対して、自分で理解して、考えて伝えるということができるようになりました。また英語で話すという習慣が付いてきて、前まではスピーキングテストはあまり好きではなかったけれど、この習慣がついて、スピーキングテストが前より楽しめるようになりました。英語で話す楽しさを実感できました。
- Two Minutes Chat はなぜか飽きない。たいていのものは、ずっと続けていると飽きてくるけど、Two Minutes Chat は飽きない。英語で話すことは好きでできるけど、書くことがあまりできないので書けるようになりたい。(Two Minutes Chat のように楽しくしたい)
- Two Minutes Chat をしていて自分が書けないけど、言える。そういう思いが芽生えて、どうしたら書けるようになるかを考えて、英語を少しずつ好きになってきました。だんだん相手の言

っていることも分かるようになって、Two Minutes Chat をするとスピーキングテストも相手に伝わるようになっていきました。

- これまではしなかった Two Minutes Chat によって、相手とコミュニケーションをとれ、会話をつなごうと自分の言葉を探し、発見がみられた。始めはたったの2分間の間で、力が付くのかと思えたけど、日を積み重ねていくことによって、質問の答え方など英検の二次試験などで確実に力が付いていると実感できた。Two Minutes Chat は楽しみの一つになったし、前向きにとらえることができた。
- Two Minutes Chat は楽しい。初めてやった時は面倒くさいと思いました。だけど、今では楽しいし、最近習った比較級を使えるようになったのが本当に面白いです。相手のことを知れるし、一番やりたいこととか、それよりこっちの方がいいというおすすめを知ることができました。自分の意見を英語で伝えることは本当に、自分にとってプラスになっていると思うし、世界とつながれると思うと本当に楽しいです。Two Minutes Chat を始めて、約3か月になりますが、どんどん内容が深くなるし、自分が言いたいことをはっきり言えるようになりました。
- 自分ができないことは何か、ということが改めて理解できました。Two Minutes Chat では言いたいことなどは出てきても、英語にできないことがよくあり、それが言えるようになった時の達成感がすごく嬉しいです。できなかったことができるようになった楽しさ、嬉しさを味わったことで自主勉強へのモチベーションが上がり、前とは違う考え方をできるようになったので、やってすごくよかったと思います。